

「西南戦争遺聞」

松見正宜さん(大阪経済法科大客員教授)著

1877 (明治10)

つとめた。

年の西南戦争で西郷隆盛の薩摩軍に参加し、自由民権の旗を掲げて戦った熊本協同隊の若者を描く「西南戦争遺聞」『第二の維新への彷徨』―写真―が刊行された。

著者は、大阪経済法

科大学アジア研究所客員教授、松見正宜さん(福岡県柳川市在住)。

長くNHKに勤務し、高知放送局放送部長も

新たな政治体制を構築

するために、再度西郷と主義の戦争をしよう―という戦略を描いていた。

そして、熊本に進出してきた西郷軍に加わって奮戦するが、しだいに形勢不利となり次々に同志が戦死、宮崎も銃弾を受け、27歳で死んでいく……。

松見さんは、この熊本協同隊の生と死の軌跡をフィクションを交

集していた。「薩長藩閥による有司専制を打倒するには薩摩軍に呼応して立つ以外に道はない。勝利の暁には、自由民権の

自由民権の旗掲げ奮戦

熊本協同隊の若者描く

えて物語

る。熊本城に籠城し西

郷軍と戦つた谷干城、

鹿児島県令として戦後処理に努めた岩村通俊ら、土佐の面々も登場する。

(フイツーンリユー

ション)名古屋市昭和区長戸町4の40行、1620円)



(片岡雅文)